

現状と課題

(人口・若者の定住率)

- 人口減少幅が県平均より大きく、若者の転出もより多い（いずれも約2.5倍以上）
- ※人口減少率10%以上の3町は全て南部地域
- 高等教育機関が2校しかなく、進学時に地域を離れざるを得ない

(産業構造・地域資源)

- 事業所数は県全体の約20%、1人あたりの所得金額も約290万と約10%強低い
- 第1次産業従事者割合は県全体の2倍
- 第3次産業従事者の割合は県全体よりも高い（約10%弱）
- 国内随一の豊かな自然と食
- 令和6年に熊野古道世界遺産登録20周年を迎える

(新たな時代潮流・地域の担い手不足)

- 若い世代を中心に地方での暮らしや地域との関わりを望む割合の増加
- 地域おこし協力隊の約7割が30代以下
- ゼロカーボンシティ宣言等の取組の進行
- コミュニティ活動を進める担い手の不足と地域のイベント継続の危機

南部地域の人口推移と推計

	H27.10.1	R2.10.1	増減率(%)	R27推計
県計	1,815,865	1,770,254	-2.5	1,430,804
南部計	324,247	301,928	-6.9	200,475
伊勢市	127,817	122,765	-4.0	100,547
尾鷲市	18,009	16,252	-9.8	7,496
鳥羽市	19,448	17,525	-9.9	8,572
熊野市	17,322	15,965	-7.8	7,652
志摩市	50,341	46,057	-8.5	24,848
大台町	9,557	8,668	-9.3	4,939
玉城町	15,431	15,041	-2.5	14,148
度会町	8,309	7,847	-5.6	5,236
大紀町	8,939	7,815	-12.6	3,796
南伊勢町	12,788	10,989	-14.1	3,892
紀北町	16,338	14,604	-10.6	7,783
御浜町	8,741	8,079	-7.6	4,964
紀宝町	11,207	10,321	-7.9	6,602

取組方向

(南部地域の振興に重要な3つの視点)

1. 若者の定着・人口の還流に向けて

- ◆ 若者が「住み続けたい」と思える地域づくり、地域への愛着・誇りの醸成
- ◆ 若者をはじめ、人びとが「戻りたい」「移住したい」と感じる地域づくり、地域との関係性の継続

【大切にしたい視点】

- ✓ 「人口の還流」の視点、過疎・離島地域の価値・役割
- ✓ 地域のこと好きであることと住み続けたい、戻りたいと思う気持ちの相関関係

2. 地域産業の活力向上に向けて

- ◆ 南部地域における「農林水産業」の振興
- ◆ 南部地域特有の資源を活かした「観光関連産業」の振興
- ◆ 南部地域における新たな働き方（副業・兼業等）・働く場の創出

【大切にしたい視点】

- ✓ 第1次産業と観光業との密接な関係性
- ✓ DXの進展

3. 賑わいのある南部地域に向けて

- ◆ 南部地域に賑わいをもたらす「人の流れ」の創出
- ◆ 南部地域を内外から支える人づくり（地域内の人材育成と関係人口の深化・拡大）

【大切にしたい視点】

- ✓ 人口減少を前提とした賑わいづくり（小さな拠点の形成など生活しやすいまちづくりの検討を含む）

関連する取組

(みえ元気プラン)

【めざす姿】

南部地域に幸福感を持っていきいきと暮らす人びとが増え、地域外の人びとが南部地域に一層の魅力を感じ、地域の外からさらに活力が注入される好循環

【KPI】

- ・南部地域における若者の定住率 (R8) 55.9%
- ・地域住民等が主体となった地域への誇りにつながる新たな活動件数(累計) (R8) 150件

注力する取組方向等

(1) 若者が「住み続けたい」と思える地域づくり、地域への愛着・誇りの醸成

- ◆ 地域を「知る」「気づく」からの愛着の醸成
- ◆ 郷土教育の推進
- ◆ 若者同士の出合いの場創出、少子化対策・子育て支援

(2) 若者をはじめ、人びとが「戻りたい」「移住したい」と感じる地域づくり、地域との関係性の継続

- ◆ 活き活きと働き、暮らしている若者等のロールモデル発信、交流
- ◆ チャレンジ・再チャレンジを応援（成長できる環境づくり）
- ◆ 移住の促進（希望者と地域の交流、空き家利活用、受入環境づくり等）

- ・就労支援、道路、交通、医療、教育、防災対策等の生活基盤確保
- ・起業・事業承継支援

(1) 南部地域における「農林水産業」の振興

- ◆ 水産資源の維持・増大、養殖業の競争力強化、伝統ある海女漁業や真珠養殖の振興・魅力発信等
- ◆ 農産物のさらなるブランド化、国内外への販売促進
- ◆ 木材関連企業の誘致、林業生産性向上
- ◆ 担い手の確保・育成

(2) 南部地域特有の資源を活かした「観光関連産業」の振興

- ◆ 伊勢志摩地域をはじめとした南部地域の観光関連産業の振興
- ◆ 東紀州地域への観光誘客強化（熊野古道受入インフラ整備、三県連携等）
- ◆ アウトドアスポーツでの誘客
- ◆ 農泊の促進

(3) 南部地域における新たな働き方・働く場の創出

- ◆ 人手不足を踏まえ、副業や兼業を組み合わせた多様で柔軟な働き方（南部モデル）を確立
- ◆ 二地域居住・ワーケーションの促進
- ◆ 中小企業等の再投資促進
- ◆ 地域資源活用や課題解決型のビジネス創出

(1) 南部地域に賑わいをもたらす「人の流れ」の創出

- ◆ 地域の人びとによる地域資源活用の活動及びネットワーク化を支援
- ◆ 祭り等の維持・活性化に向け、地域外との連携を強化
- ◆ 挑戦、変革の取組をサポート（応援する地域文化の醸成、スモールビジネス創出の促進）

(2) 南部地域を内外から支える人づくり

- ◆ 地域の「賑わい」創出に取り組む人材の育成（情報提供、学習機会の提供、ネットワーク化、地域外との交流促進等）
- ◆ 「関係人口」の創出・深化（ふるさと納税等のツールも活用）
- ◆ 「企業版」関係人口の創出（企業による南部地域の応援）

「南部地域活性化基金」を活用し、注力する取組方向に沿った市町の取組を支援するとともに、新たに、県各部局においても南部地域の振興に向けた事業展開がなされるよう連携を強化